

第2回東大水フォーラム開催 水研究のなかま集う

1. 総括

10月28日(金)13:00-17:00に本郷キャンパス工学部2号館セミナー室2で、第2回東大水フォーラムが開催された。新領域、農学、工学、公共政策などの広い分野から水に興味のある学内の教員、学生約40人が集まり、2件の特別講演、ポスターセッションに続いて総合討論を行った。

はじめの特別講演者はニュージーランド、カンタベリー大学経営学部の J. F. Raffenspurger 博士で、地下水の市場取引モデルに関する発表が行われた。ニュージーランドでは、農業用水として大量の地下水が汲み上げられており、地下水水位の低下と海水の浸入などの問題を引き起こしている。市場メカニズムを利用した地下水保全の方策として、地下水の大口利用者を対象に地下水揚水権の市場での売買を検討している事例が報告された。引き続き、本学工学系研究科社会基盤工学専攻の小池俊雄教授から、地球規模水循環をめぐる国際的動向について講演があり、東大として取り組むべき水循環研究課題等について活発な議論が展開された。

その後、休憩時間も兼ねてミニポスターセッションが行われた。大学院生を中心に15件のポスター発表があり、会場内ではお茶を片手に和やかな雰囲気で見聞が交換された。

総合討論では、本学の学生が中心となって運営している AGS の UTSC で水ワーキンググループの代表の山本俊太郎君から、水 WG の活動紹介と参加への呼びかけ、東大の水関連研究に対する期待が述べられた。その後、教員と学生が一体となり、今後の東大水フォーラムの活動に対する意見交換を行った。五月祭等に対談方式のシンポジウム開催や夕刻の気軽なビール&ミニポスターセッション開催等のアイデアが出された。

会議終了後の懇親会では、自己紹介に続いて水に関わる異分野交流が行われた。

次回の水フォーラムは来年5月を予定している。詳細情報については下記の URL をご参照頂きたい。



<http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/UTWF/> (文責: 滝沢智、溝口勝、沖大幹)

2. 参加学生からの感想

普段学生は複数の教員と一緒に討議をするという機会がないため、今回の会合はとても有意義だった。総合討議で学生から教員への要望を述べさせて頂いた上に、討議の中で「何かを知りたいと考えて日々活動すること」の大切さを教えられた。さらに、「学生が自発的に行う研究活動を前向きに支援する」という先生方の言葉に非常に勇気付けられた。今後とも既成の分野を横断する水研究活動に精力的に取り組んでいきたいと思う。学部生・大学院生を問いません。水研究に関心のある方はホームページをご覧ください。

<http://ags.esc.u-tokyo.ac.jp/utsc/workgroup/water/>
(AGS-UTSC 水 WG 代表: 公共政策大学院修士1年 山本俊太郎)

